

2022年度第3回豊岡市環境審議会 会議録

日 時：2022年12月26日（月）14時00分～16時30分

会 場：豊岡市役所本庁舎3階 庁議室

出席した委員：山室敦嗣、雀部真理、青柳順子、安藤有公子、木築基弘、田原美穂、
戸田勝之、西垣由佳子、野世英子、洞田美津子、増原直樹、村田美津子、
吉本初司

欠席した委員：高橋佳大、山下正明

事 務 局：市民生活部 部長 瀧下貴也、生活環境課 課長 成田和博
地球温暖化防止対策室 室長 井上浩二、主任 大逸優人、主事 岸谷依子

1 開会（司会：井上室長）

- ・会議の公開、会議録の公表を確認
- ・配布資料の確認

2 あいさつ

- ・山室会長より挨拶

3 協議（議長：山室会長）

(1) 2021年度環境報告書（案）について

【会 長】第2部と第6部の資料をご覧いただきたい。はじめに、事務局から協議の進め方について説明をお願いします。

【事務局】今回の審議会では環境報告書第2部の最終確認と第6部について審議いただきたい。第6部は、前回の環境審議会でもいただいた意見を事務局でまとめているので、お気づきの点があればご意見いただきたい。審議は第2部、第6部の順番で審議する。環境報告書は、今日の審議を踏まえて事務局がまとめたものを正副会長にご確認いただき、完成とする。報告書第5部と第6部の関係について説明する。毎年、環境審議会の意見として第6部に豊岡市に対する意見をいただく。その意見を踏まえて市役所関係課の反映状況をまとめたものが第5部となる。ただし、環境報告書完成時期の都合上、来年度予算編成に間に合わな

い。そのため、再来年度の施策反映になることをご承知いただきたい。

ア 第2部「目標とする姿」への取組み状況

【会 長】 それでは協議に入る。事務局から第2部の内容についてご説明いただきたい。
また、前回の審議会で出た意見を反映しているのでご確認いただきたい。

【事務局】 前回の審議会後、目標像ごとのトピックスの他に年間を通じて大きな目玉となるトピックスを設けた方がいいのではないかと提案をいただいた。事務局としても賛成だが、掲載するにあたり、しっかり議論した上で内容を確定させたいと考えている。そのため、目玉となるトピックスは来年度以降に掲載することとしたい。また、トピックスに目がいくような工夫をしてほしいとの意見から、今年度の環境報告書の表紙には、トピックスで使用されている写真を掲載し、内容に興味を持ってもらいやすい見せ方にしたいと考えている。表紙案には、「但東野あそびくらぶ いつなっと」の活動写真、「プラスチックごみ削減対策実行計画」を策定した際の写真、竹野海岸清掃活動の写真、「世界の持続可能な観光地トップ100選2021」に選ばれた写真を掲載している。

それでは第2部の修正点について、目標像①から⑩まで通して説明をさせていただきます。各評価項目の基準がよくわからないとご意見をいただいたので、第2部の表紙5ページに評価方法について掲載した。目標像①の8ページ「(3)森林の整備」に、林業賃労働者数のグラフを追加した。こちらは兵庫県の林業統計書に基づいて記載している。年間50日以上現場で作業した従事者を林業賃労働者と定義し、2020年度では54人となっている。続いて、目標像②の11ページ「シカ有害被害撲滅大作戦」の捕獲状況のグラフの説明を「兵庫県が策定する「ニホンジカ管理計画」に基づき、市では、2014年から年間捕獲数6,500頭を目標に、「シカ有害被害撲滅大作戦」を実施しています。」に変更した。併せて、「鳥獣保護管理法に基づき、捕獲物等は原則として持ち帰ることとし、やむを得ない場合に限り生態系に影響を与えないような適切な方法で埋設することとされています。」と表記しているが、埋設が困難な状況が市内に散見されているため、第6部に環境審議会の意見として掲載する。目標像③の修

正点について、「(3)地産地消」の「学校給食での豊岡産野菜利用率」のグラフの下に「学校給食での地場産物利用率」のグラフを掲載していたが削除した。地場産物利用率について、農林水産省が策定した「第4次食育推進基本計画」の目標設定が食材数ベースから金額ベースに変更となったが、県から教育委員会に対しては食材数ベースでカウントするよう通達が来ているため、給食センターは金額ベースでの算出を行っていない。データの算出が困難な状況を踏まえ、地場産物利用率についてのグラフは削除することとした。また、地元の食材を販売している店のデータを掲載するという意見については、第4部に直売所の数字を記載することで対応したい。13ページ記載の「農家数の推移」や「経営耕地面積」等の「農林業センサス」データについて、農会に属していない方の数値実数も反映されているのかとの意見があった。確認したところ、農会に属していない方にも「農林業センサス」を実施しているが、全員が調査に回答しているわけではないため、実数は反映しきれていない。目標像⑤ 20ページ「野外コウノトリの繁殖状況」のグラフで、「繁殖ペアが増えてきた一方、巣立ち後の幼鳥が防獣ネットや電気柵に絡まり救護・死亡する事例が増加しています」という文言を追加。また、市内での事故件数をグラフで示せないか確認したところ、豊岡市のみのデータは現状公表されていないため掲載していない。22ページでは外来種の説明として、「外来種とは、もともとその地域に生息・生育していないのに、人間の活動により意図的・非意図的に持ち込まれた生きもののことです。中でも、在来の生きものに悪影響を及ぼす外来種を侵略的外来種と呼びます。豊岡市では写真のような外来種が生息・生育しています。」の説明文と写真を記載している。市の事業で市内のブラックリストを作成した際に、優先的に対処する種として選定された生きものの中で、環境省が定める総合対策外来種、緊急対策外来種の両方に属している生きもの5種類を報告書に掲載している。また、審議会からの意見として、第6部で外来種対策や普及啓発に取り組むよう意見を掲載している。続いて、目標像⑥ 23ページ「歴史博物館来館者数」のグラフについて、市内全小學校生徒が歴史博物館に来館しているか質問をいただいたが、確認したところ全校は訪れておらず、来館している小學校は10校にも満たないと回答があった。各校でカリキュラムが組まれていることとバス代の確保が、歴史博物館に来訪できない理由となっている。24ページの「地域コミュニティの行事事例」では、2021年度地域コミ

ユニティ組織活動事例集から、コミュニティ三方「三方ふるさとカルタの完成」及び、床尾の里てらさか「桐野城址について学ぼう！」について記載している。目標像⑨ 33ページ「(2)太陽光発電」の説明に、「生物多様性や景観への影響に対して、適切に配慮しながら導入していくことが求められます。」という文章を追加した。目標像⑩ 37ページ「(4)人・もの・情報の交流」に「コウノトリ目撃情報提供数」のグラフと、「市民参加によるコウノトリのモニタリング「コウノトリ市民科学」には、全国から目撃情報が提供されています。」及び「コウノトリの野外個体数増加に併せて、目撃情報提供数も増加しています。」という文言を追加した。

【会 長】説明があったとおり前回の審議会で出た意見は第2部、第6部に反映をしている。発言された内容がまだ十分反映されてない箇所等あれば、ご意見いただきたい。

【委 員】24ページ「コミュニティ組織活動事例集」で、三方と寺坂の活動を掲載しているが、他の地域の活動や取り組みも知ってもらいたいので、活動事例が掲載されているホームページのURLや二次元バーコード等を掲載いただきたい。

【事務局】二次元バーコードを掲載する。

【委 員】目標像⑨ 33ページのグラフ「大規模太陽光発電所 年間発電量」の説明について、「各大規模太陽光発電所は、20年間運営します。」と表記されているが、パネルの多くは20年以上経っても使用できるため、20年と限定している表現は間違っているように思う。

【事務局】20年間という期間は固定価格買取制度の期間という意味で掲載している。意見のあったとおり、パネルは20年経った後も使い続けられる。固定価格買取制度終了後は大規模太陽光発電所を使えるまで使いながら、発電した電気は公共施設へ供給したいと考えている。表記については、「固定価格買取制度（FIT制度）を使って20年間売電します。固定価格買取制度終了以降の発電については公共施設等での電力活用を検討していきます。」に変更する。

【委員】33ページのグラフ「大規模太陽光発電所 年間発電量」の単位がMWとなっているが、単位はMWhではないか。

【事務局】単位を修正する。

イ 第6部 2021年度の環境に関する取組みについて豊岡市環境審議会の意見
(今後の取組みにむけて)

【会長】それでは、第6部の審議に移る。

【委員】先ほど、環境審議会の意見は再来年度の施策に反映されると伺ったが、その旨、報告書内に記載があると良いのではないか。

【事務局】記載する。

目標像① 手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

【委員】目標像①に関する主な関係課は農林水産課と地籍調査課と記載があるが、各担当課は関係課として課名があがっていることを認識しているのか。

【事務局】認識していない。環境報告書完成後に全庁的に提示するため、各担当課への対応や回答依頼については新年度以降になる。

【委員】では、関係課名を掲載しているが、担当課が違う可能性もあるということか。

【事務局】事務局で関係課を抽出しているため、意見のとおり課が異なる可能性もある。回答の内容によっては、掲載している関係課を削除することもある。

目標像② 里山が様々な利用され、関わる人が増えています

【委員】学校給食でのジビエ活用について、具体的な計画は決まっているのか。

【事務局】現状、具体的な計画はないが、ジビエを活用することで地場産物の利用に繋が

るとともに、生物多様性について学ぶ良い教材にもなりうると思っている。環境審議会でジビエの活用について提言があったことを伝えることで、関係課で議論になれば良いと考えている。

【委員】ジビエ活用について地域の中でうまく利用できるが良い。第6部には、具体的な研究に着手するよう記載があると良い。

【事務局】そのように修正する。

【委員】目標像②「里山が様々な利用され、関わる人が増えています」とあるが、審議会の意見として有害鳥獣駆除についての意見しか出ていない。

【委員】「農林業への被害面積や被害額も減少していることから、対策がうまく行われていることが分かります」と記載がある。目標像③では、農業農地面積や農家数が年々減少していると記載があり、対策がうまく行われていることで被害面積や被害額が減っているとは限らないように思うが、いかがか。

【委員】獣害対策の補助金で網を購入し設置したところ、田んぼの獣害は減少したように思うが、畑の食べ物を荒らすような被害は全く減っていないように感じる。地域が一貫して獣害対策を行う体制が整っていると、獣害対策は減るように思う。

【委員】網や罠にかかっている鹿をよく見るので頭数は減っていると思うが、こちらも被害は減っていないように思える。

【事務局】委員の意見より、地域の実情では対策により被害が減っているとは名言できないため、文中から「対策がうまく行われていることがわかります。」という一文を削除する。

【委員】文中に「埋設処理が困難な課題」とあるが、本当に課題があると言い切れるか。

【委員】実態としては、鹿が入るような大きな穴を掘ることができずに放置されている。また、ある地域では山奥に鹿を捨てる場所があるが、飽和状態となっていると聞いた。

【事務局】猟友会は高齢者が多く、狩猟後軽トラに載せるのもやっとなので、埋設まで行うのは難しいと認識している。また、埋設以外にも課題はあるため、文中の「埋設処理」を「適切な処理」に変更する。

目標像③ 使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

【委員】文中「学校給食での地場産物の利用がさらに進むことを期待します。」に、「旬菜」という言葉を入れていただきたい。旬な食材を食べることで季節感を感じることは、子どもたちにとって大切な教育になると思う。

【事務局】指摘のとおり修正する。

【委員】「耕作放棄問題について、所有者が問題意識を持つことが必要です。」とあるが、問題意識は地域全体が持っていると思うので、「所有者が問題意識を持つことが必要です。」はいらない。

【事務局】指摘のとおり修正する。

目標像④ あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

【委員】「漁礁の設置は、魚類にとって繁殖場所や隠れ場として重要な機能を果たします。」とあるが、魚は漁礁に隠れることができても繁殖することはできないので、文中に「藻場」という言葉を入れてほしい。

【事務局】指摘のとおり修正する。

【委員】「今後も継続的に漁礁を設置し、効果検証や周知等に努めてください。」とあるが、ここでいう「周知」は何を指しているか。

【事務局】 漁礁設置の活動についての周知と認識している。

【委員】 漁礁がある場所に魚がいることを周知をすると、魚の乱獲につながる恐れもある。環境や海を守るという意味で漁礁を設置する等、周知の仕方を意識する必要があると思う。

【事務局】 記載の文章を「今後も継続的に漁礁や藻場を設置し、効果検証を行うとともに、「海を守ることの大切さ」の周知に努めてください。」とする。

目標像⑤ コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

【委員】 意見なし

目標像⑥ 様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています

【委員】 「地域の伝統行事や伝統文化を広く知ってもらうことで、新たな価値の創出につながる可能性があります。」とあるが、知ってもらうだけでは繋がっていないため、「楽しむ」という言葉を入れてほしい。

【事務局】 「地域の伝統行事や伝統文化を広く知ってもらい、それを楽しむことで、新たな価値の創出につながる可能性があります。」とする。

【委員】 「移住者とも交流しつつ、伝統を守りつつ、新しい伝統が作られていくことを期待します。」とあるが、目標像⑥は「様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています」とあるため、移住者だけでなく、もう少し広い捉え方ができる文言にすると良いと思う。

【事務局】 文中の「移住者」を「様々な人々」に変更する。

【委員】 居住地以外の地域の伝統行事について知らない市民が多い印象がある。地域の取組や伝統について、うまく情報発信されるような仕掛けが作れると良い。情報発信を積極的に進めることで地域住民の交流も活発になると思う。

目標像⑦ 子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

【委員】 コウノトリKIDSクラブ以外にも、様々な団体が子どもたちに自然環境に親しむ活動を行っているため、その旨記載があると良い。

【事務局】 指摘のとおり追加する。

【委員】 市内の一部の学校では、ふるさと学習の授業に専門家を招き、授業を行っている。豊岡には豊富な知識を持った市民や専門家が多くいるので、市内の小中学校の授業に講師として招くと良いと思う。

【事務局】 講師派遣等の支援も充実するよう追記する。

**目標像⑧ 市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減って
います**

【委員】 「高年独居世帯などにおいては、ごみの分別やごみ出しが困難な状況です。」とあるが、その根拠は何か。

【委員】 高齢で指定ごみ袋の口が結べなかったり、家からごみステーションまで運べない方もいる。小学校のPTAで地区の資源ごみを回収する取り組みもある。

【委員】 ごみ出しの課題については高齢者以外にも障害を持つ方々も当てはまると思うので、高年独居世帯に限定した記載は控える方が良い。

【事務局】 近隣自治体では、コミュニティの活動費の中からごみ収集の費用を捻出し、独居高齢者の方のお宅に伺いごみ出しを手伝っている。また、ふれあい収集という玄関先までごみを回収する取り組みも広まっている。高齢者や障害のある方のごみ出しについて豊岡市も課題として認識しているが、まずは地域ごとに住んでいる方々の年齢層等を調べ、豊岡市に合う対策を検討していきたい。

**目標像⑨ 「市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの
利用も増えています」**

【委員】「公共交通機関を利用することは、地域経済の活性化にもつながります。」とあるが、地域経済の活性化よりも交通インフラの維持の方が適切ではないか。また、EV車は家庭だけでなく事業者も積極的に導入すべきなので、文中の「家庭における」を削除いただきたい。

【事務局】指摘のとおり修正する。今後、市としてもEV車の普及を進めていきたいと考えている。

【委員】国の補助金があることで、自動車メーカーが価格を下げようとしにくい問題がある。ちなみに、豊岡市内の電気自動車の所有数はどれくらいか。

【事務局】所有数は把握していない。市内に設置されている充電器から充電利用回数を把握することはできるが、市民が所有している電気自動車かどうかまでは分からない。ただ、現状四駆の電気自動車は少ないため、雪が降る豊岡では電気自動車の所有者は少ないように思う。ちなみに、市役所の公用車のうち電気自動車は、昨年導入したC+PODの1台のみである。

【委員】文中に「自然破壊型の再エネ」とあるが、イメージがしづらいため、誰もが見て分かりやすい表現に変更すると良い。

【事務局】平易な言葉に変更する。

目標像⑩ 環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

【委員】意見なし

(2) 地球温暖化対策実行計画（区域施策編）改定について

【事務局】今年度および来年度の2か年かけて地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の改定を予定している。今後の審議会で、実行計画の改定内容について審議いただく。本計画は温暖化対策を推進するため、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき2016年度に策定した。2016年から2030年までの14年間を計画期間とし、2030年の豊岡市域の温室効果ガス排出量を2013年度と比較して28.1%減

らすことを目標として掲げている。しかし、計画が策定された2016年度と今では地球温暖化対策への考え方が大きく変化し、実行計画も2050年カーボンニュートラルを実現するための計画に改定する必要がある。実行計画改定にあたり、主に①生物多様性保全に配慮した再生可能エネルギーの導入、②豊岡の特徴を踏まえた地域資源の活用、③再生可能エネルギー導入による地域経済の活性化や地域課題の解決の3点を考慮した施策の検討を行い、実現可能性の高い計画内容としたい。次回環境審議会では、実行計画改定素案の内容を審議いただく。また、実行計画改定にあたっては、市長を本部長とした地球温暖化対策推進本部および関係課による部会を立ち上げ、庁内でも議論する。

4 その他

- ・第4回環境審議会について
- ・委員報酬の振込みについて

5 閉会

- ・雀部副会長あいさつ